

相談援助実習指導Ⅱ

担当教員 橋本 真奈美、福崎 千鶴、田島 望、隈 直子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 相談援助実習の意義について理解できる。
2. 個別指導並びに集団指導を受けて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得できる。
3. 社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己の学習課題等、総合的に対応できる能力を修得できる。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていく能力を涵養できる。

【授業の展開計画】

[授業全体の内容の概要]

●印＝4月下旬に集中講義 ■印＝配属実習終了後に集中講義

20人以下の規模に編成し、実習の事前・事後に実習指導教員から個別並びに集団指導をうける。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

社会福祉士に必要な資質、技能、倫理等の能力を実践的に修得し、資格取得を目指す。

※相談援助実習指導Ⅰと共通

週	授業の内容	週	授業の内容
1	●見学実習準備(事前学習の確認、指導)	16	感染症および予防方法の理解
2	●見学実習準備(事前学習の確認、指導)	17	実習計画書(案)に基づいたレポート作成指導
3	●見学実習(サービスや利用者の理解)	18	実習課題の整理、三者協議事項指導
4	●見学実習(サービスや利用者の理解)	19	三者協議時の実習内容・計画等の指導
5	●見学実習振り返り(学習課題の指導)	20	実習計画の再検討の指導
6	課題レポートの確認と事前学習指導	21	実習中の連絡方法や必要書類等の指導
7	実習先の理解(法的根拠、利用手続き等)	22	巡回指導や実習中の諸注意事項の指導
8	実習先の理解(配置基準、主な業務内容等)	23	■個別スーパービジョンにて実習の振り返り
9	アセスメント、支援プラン作成指導	24	■記録類を参考にした個別スーパービジョン
10	実習計画書作成(目的や意義、方法の指導)	25	■総括レポート作成の指導
11	実習計画書(案)の策定指導	26	■総括レポート作成の指導と評価指導
12	実習先への事前訪問指導	27	■実習報告会の発表指導
13	実習記録の方法や内容の記載指導	28	■実習報告会での発表と相互研鑽指導
14	個人情報保護や守秘義務の指導	29	■実習報告会での発表と相互研鑽指導
15	実習計画書(案)に基づいたレポート作成指導	30	■ジェネリックソーシャルワーク検討の指導

【履修上の注意事項】

相談援助実習は、これまでに講義や演習で学んできたことを基盤に総力で体験しながら学ぶものである。したがって、実習指導においてもソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習をしておくこと。

また、実習先への事前訪問やボランティア活動等を通して理解を深め、事前学習にもさらに取り組み、相談援助の実践能力が涵養できるように予習を行うこと。

【評価方法】

指導に対する積極的応答と関与(30%)およびレポート提出とその内容(70%)の合計で評価する。レポートの内容に

ついては講義内で補足説明をしていく。

【テキスト】

『相談援助実習ハンドブック』関西福祉科学大学社会福祉実習教育モデル研究会編 ミネルヴァ書房(最新版)
注) 相談援助実習指導Ⅰにおいて購入済み

【参考文献】

随時、授業内で紹介する。